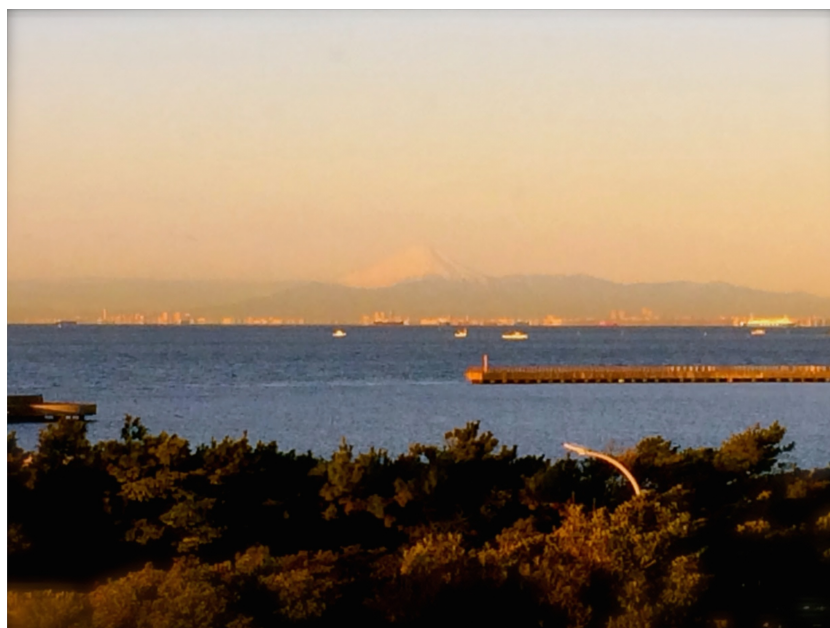


千葉市立海浜病院小児科 後期研修（専攻医）プログラム

私たちはこどもたちの未来を大切に想っています



青い海、富士山、幕張ベイタウンを望むとても素敵な研修環境です
小児科医は和気あいあいと、こどもたちの幸せを祈って働いています
興味のある方はプログラムをご覧ください

1. プログラムの概要

こどもたちの健康・安全を守るこどもの総合医、小児のジェネラリストを育成します。後期研修医（専攻医）は、小児科学会小児科医の到達目標の25領域におけるレベルAの知識・技能を習得し、学問的姿勢と医師としての倫理性、社会性などを養います。これらの実現のために、サブスペシャリティ研修、地域医療にも重点を置いたプログラム構成としています。

研修施設群 連携・関連施設（所在地）

- 1) 基幹施設：千葉市立海浜病院（千葉市美浜区）
- 2) 連携施設：千葉大学医学部附属病院（千葉市中央区）
 - 千葉県こども病院（千葉市緑区）
 - 東京女子医科大学八千代医療センター（千葉県八千代市）
 - 千葉県循環器病センター（千葉市原市）
 - 佐久総合病院・佐久医療センター（長野県佐久市）
 - 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（沖縄県島尻郡）

3) 関連施設：千葉市立青葉病院（千葉市中央区）

千葉県千葉リハビリテーションセンター（千葉市緑区）

国立病院機構千葉東病院（千葉市中央区）

そがこどもクリニック（千葉市中央区）

おおた小児科（千葉市美浜区）

沖縄県立北部病院（沖縄県那覇市）

同 宮古病院（沖縄県宮古島市）

同 八重山病院（沖縄県石垣島市）

国立成育医療研究センター（東京都世田谷区）

募集人数 6名

研修期間 3年

身分・待遇 千葉市病院局 常勤職員（専攻医）

給与税込 61万（1年）～64万（3年）、時間外・宿日直手当別途支給
賞与あり、年次有給休暇20日、職員保育所あり、短時間勤務あり。

上記は千葉市の給与規定により変更する場合があります。

連携施設の身分・待遇に関しては、それぞれの施設の規定に従います。

研修ローテーション（モデル） A～F, 6名の後期研修医 ローテーションの例

	1年目				2年目				3年目			
	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3
A	市立海浜病院 救急 ER	NICU			沖縄県立南部・こども医療センター 救急 ER				千葉市立海浜病院 関連施設 救急 ER			
B	千葉市立海浜病院 救急 ER		NICU		市立海浜病院 救急 ER		沖縄県立南部・こども医療センター 救急 ER					
C	NICU		市立海浜病院 救急 ER		八千代医療センター 救急 ER				千葉市立海浜病院 関連施設 救急 ER			
D	千葉市立海浜病院 救急 ER		千葉大学医学部附属病院				NICU		市立海浜病院 救急 ER			
E	市立海浜病院 救急 ER		NICU		千葉市立海浜病院 関連施設 救急 ER				佐久総合病院 佐久医療センター 救急 地域医療			
F	NICU		千葉市立海浜病院 関連施設 救急 ER				千葉こども病院/千葉県循環器センター				市立海浜病院 救急 ER	

本プログラムの到達目標、年次研修計画と特色：

外因系を含めた救急、急性疾患、慢性疾患研修に加え、サブスペ研修、地域医療研修を充実させるプログラム構成になっています。

1 年次：千葉市立海浜病院（基幹）にて感染症、アレルギー、神経、新生児などの幅広い領域を経験し基本的診療技能を修得します。また、年間1万を超えるERで救急小児の初期対応、さらに、予防接種や乳幼児健診も担当し健康児の成長、発達を学びます。

2～3 年次：千葉市海浜病院（基幹）の基本研修に加えて、連携施設にてサブスペ領域、地域医療を研修します。各連携施設では経験豊富な指導医が指導にあたります。

地域医療：本プログラムの大きな特色として、千葉市内の施設研修に留まらず、以前より交流のある施設における地域医療研修を可能にしていることです。小児科医として成長するために、地域医療の経験は自身の大きな糧となることでしょう。

関連施設（研修領域）：国立病院機構千葉東病院（腎臓）、千葉リハビリテーションセンター（リハビリ・在宅）、千葉市立青葉病院（児童精神）、そがこどもクリニック（地域医療）、おおた小児科（地域医療）、沖縄県立病院（地域医療）、成育医療センター（集中治療）

1-2 千葉市立海浜病院はどこにあるの??

<http://www.city.chiba.jp/byoin/kaihin/kaihintop.html>

海浜病院の立ち位置

いまなお成長する幕張新都心の窓口に位置する千葉市の基幹施設です。96万人口千葉市はドローンを活用した宅配サービスの国家戦略特区に指定され、また、東京湾に面する幕張ベイタウンは今後10年間にわたって新たな住宅開発が予定されています。2018年には日本サッカー協会の拠点競技場の建設、2020年には東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。当院は発展する幕張地区を含む千葉市のこどもたちの成長・健康を見守っています。

最寄駅は、京葉線の海浜幕張、検見川浜です。これら最寄り駅から東京駅まで35分の立地です。



千葉市の小児中核病院として

- 1) 政令指定都市である千葉市の小児救急診療を千葉市医師会と協力して 365 日担当しています。
- 2) 救急外来では 1 万 5,000 件の内因・外因系小児救急患者に対してナースによる JTAS を用いたトリアージ、小児科医による初期対応ののちに、外科系診療科と連携してケアします。
- 3) 日本小児科学会の地域小児科センターとして専門外来（アレルギー、神経、循環器、先天代謝異常症、内分泌、消化器、感染症、新生児、予防接種、乳児健診、小児外科、小児整形外科）を開いています。
- 4) 千葉県の地域周産期母子医療センターとして超低出生体重児から成熟児までの新生児のケアをおこなっています。
- 5) 小児入院医療管理料 1 を取得（常勤小児科医 20 名以上、6 歳未満の年間手術 200 件以上、小児緊急入院数 年間 800 人以上）している千葉県 4 施設のうちのひとつです。

2. 小児科後期研修はどのようにおこなわれるのか

3 年間の小児科後期研修（専攻医）では、日本小児科学会が定めた「小児科医の到達目標」のレベル A の臨床能力の獲得をめざして後期研修を行います。到達度の自己評価と指導医からのアドバイスを受けるために、「小児科専門研修手帳」を常に携帯し、定期的に振り返りながら後期研修を進めます。

2-1 スタッフの紹介 平成 28 年 4 月

指導医氏名	職名	専門分野	専門医・指導医の資格
寺井 勝	院長	小児一般 循環器 集中治療	日本小児科学会専門医・指導医 日本小児循環器学会専門医 日本循環器学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本感染症学会暫定指導医
金澤 正樹	診療局長	先天代謝/消化器	日本小児科学会専門医・指導医
大塚 春美	統括部長	新生児 神経	日本小児科学会専門医・指導医 日本小児神経学会専門医 日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）暫定指導医, NCPR インストラクター
地引 利昭	統括部長	循環器	日本小児科学会専門医・指導医
今井 郁子	部長	新生児	日本小児科学会専門医・指導医
岩松 利至	部長	新生児 神経	日本小児科学会専門医・指導医 日本小児神経学会専門医 NCPR インストラクター
鈴木 康浩	部長	新生児	日本小児科学会専門医・指導医 日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医

橋本 祐至	部長	小児一般 神経 救急	日本小児科学会専門医・指導医 日本小児神経学会専門医 PALS・NCPR・JATECプロバイダー DMAT 隊員
阿部 克昭	主任医長	感染	日本小児科学会専門医 日本感染症学会専門医 抗菌化学療法指導医 Infection Control Doctor
森田 慶紀	主任医長	免疫/アレルギー	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医 日本リウマチ学会専門医
杉田 恵美	主任医長	小児一般 先天代謝/消化器	日本小児科学会専門医・指導医 日本小児栄養消化器肝臓学会認定医
廣瀬 陽介	医長	救急 (成人・小児)	日本小児科学会専門医 NCPR・JATEC・JPTECプロバイダー DMAT 隊員
公平 愛生	医長	小児一般	
小玉 隆裕	医長	小児一般	PALS プロバイダー
加藤 いづみ	医長	小児一般 免疫/アレルギー	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医 PALSプロバイダー
大橋 美香	医長	新生児	日本小児科学会専門医
吉田 未識	医長	小児一般	日本小児科学会専門医
細川 真理子	医長	小児一般	
鏑野 歩	医師	小児一般	
松本 由里香	医師	小児一般	PALS・NCPR プロバイダー
仲村 あずさ	医師	小児一般	
藤本 遼	医師	小児一般	
森山 陽子	非常勤	小児一般	日本小児科学会専門医 PALSプロバイダー
武之内 史子	非常勤	小児外科	日本外科学会専門医 日本小児外科学会専門医
小原 由起子	非常勤	小児外科	
石和田 文栄	非常勤	感染	日本小児科学会専門医 Infection Control Doctor
亀ヶ谷 真琴	非常勤	小児整形	日本整形外科学会専門医 同「小児整形外科委員会」委員長
田邊 雄三	非常勤	神経	日本小児科学会専門医 日本小児神経学会専門医
高谷 具純	非常勤医師	内分泌	日本小児科学会専門医 日本内分泌学会 内分泌・代謝科専門医

病床数、症例数が豊富

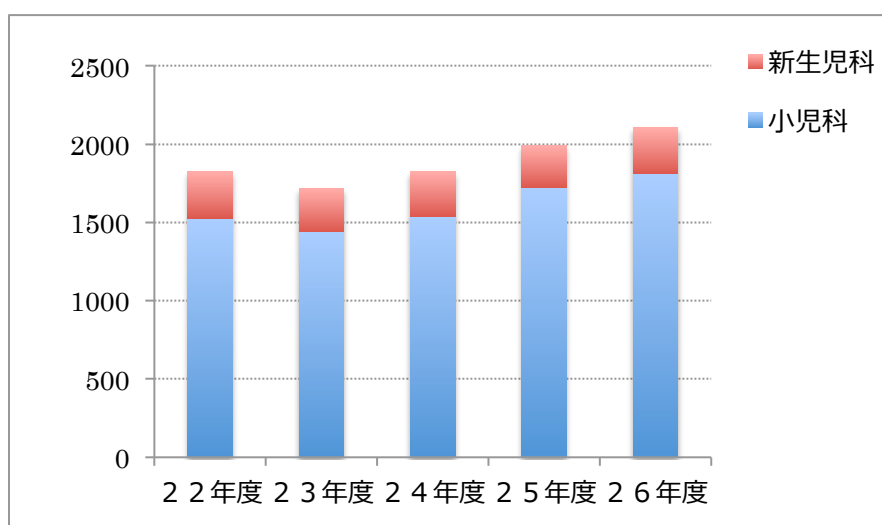
小児病棟の病床数は42床（PHCU4床を含む）、新生児病棟はNICU12床とGCU22床の計34床で、研修に恵まれた病床数です。病院からは海の四季を見る事ができます。



小児病棟からの眺め

過去5年間の小児科入院患者・救急患者数

- ・ 入院患者（実数）は年間2,000人前後（図）です
- ・ 救急車の受け入れ台数は 夜間救急外来も含めて年間約1,500台です
- ・ 時間外救急外来患者数は 夜間救急外来も含めて年間約15,000人です
頭部打撲、溺水、薬物誤飲、熱傷などの外因系も受け入れています
- ・ 重症小児はICUに収容し24時間ケアします
- ・ 中等症小児は病棟のHCUに収容し24時間ケアします



2-2 千葉市立海浜病院で小児科専門医を目指す

鋪野 歩 後期 3 年 (千葉大学卒)

千葉市立海浜病院小児科の魅力は主体的に診療に当たるチャンスとフィードバックの両方が充実していることです。外来、病棟ともに、主治医として自分で治療方針の決定、マネジメントを行います。もちろん、指導医の先生方は気軽に相談にのってくださり、困ることはありません。毎週のカンファレンス以外にも、勉強会が豊富で、学会発表や論文作成の際にも手取り足取り指導していただいています。経験症例も市中病院の小児科ならではの common disease から稀な疾患まで多岐に渡ります。中には専門病院に転院する症例もありますが、希望すれば関連病院に勉強に行くことも可能です。何より職場の雰囲気が高く、様々な疾患の患者さん、ご家族と向き合いながら、楽しく研修しています。ぜひ一度見学にお越しください。

仲村あずさ 後期 1 年 (東京女子医科大学卒)

国立千葉医療センター初期研修を経て 2016 年 4 月より千葉市立海浜病院小児科にて後期研修を開始しています。後期研修科を決定するにあたり、もとより子どもが好きであり小児医療に貢献したいという思いがあり、総合診療に強い興味を持ったことと併せて小児科を選択しました。千葉市立海浜病院では 24 時間 365 日小児救急患者の受入れを行っているとのことで、様々な疾患で来院される小児の対応について深く学ぶことができると考えております。常に広い視野で鑑別疾患を考えることを心がけ、家族の心情等にも配慮し、医師として人として患児やその家族に寄り添うことを目指して頑張りたいと思います。

藤本 遼 後期 1 年 (新潟大学卒)

私は千葉大学医学部附属病院で初期研修を行い、そのカリキュラムで 1 年間海浜病院にて研修を行ったことが海浜病院との出会いです。海浜病院小児科は千葉市の中核を担っており、充実した common disease を研修できること、またハイケアユニットの増設や救急外来へのトリアージ導入など病院としてさらに発展しつつあることが海浜病院を後期研修先に選んだ理由です。将来どの小児科分野に進むかまだ悩んでいますが、まずはしっかりとした研修を行い、今後の土台を作りたいと考えています。最後に、小児科に限らず海浜病院の先生方は優しく和やかな雰囲気であることも魅力の一つなので、海浜病院での研修を悩まれている方は、是非一度見学にいらしていただければと思います。



♪♪・・・願い乗せて飛んで行くよ・・・風の中を力の限り・・・

2-3 週間スケジュール（千葉市立海浜病院）

グリーン部分は特に教育的な行事です。

	月	火	水	木	金	土・日
7:00-8:00		画像カンファレンス（1/月）				
8:00-8:15	受け持ち患者情報の把握					
8:15-9:00	朝カンファレンス（患者申し送り） チーム回診					週末日直（2/月）
9:00-12:00	病棟	病棟 救急車対応	病棟	病棟	病棟 救急車対応	
12:00-13:00						
13:00-16:45	病棟 学生・初期研修医の指導	病棟 救急外来 救急車対応	病棟	病棟 学生・初期研修医の指導	病棟 救急外来 救急車対応	合同カンファレンス（1/年）
全体回診						
症例検討会 ミニレクチャー						
16:45-17:00	病棟・救急外来患者の申し送り					
17:00-18:00		CPC（1/年）	ふりかえり（1/月）	周産期合同カンファレンス（1/月）	トリアージカンファレンス（1/月）	
19:00-21:00		関連領域のレクチャー（8/年）			公開カンファ発表（6/年）	
	当直（4/月）ないし時間外救急外来（3~4/月）					

医療安全管理に関する研修は必修

- ・ 患者や家族とのコミュニケーション
- ・ 説明と同意
- ・ Morbidity & Mortality カンファレンス

感染対策セミナーの研修は必修

医療倫理セミナーの研修は必修

卒後研修センター主催のシミュレーション教育は必修

3. 後期研修医（専攻医）の到達目標

3-1. (習得すべき知識・技能・研修・態度など)

- 1) 「小児科専門医の役割」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた小児科専門医としての役割を3年間で身につけるように指導されます（研修手帳に記録）

役割		1 年 目	2 年 目	終 了 時
子どもの 総合診療 医	子どもの総合診療 子どもの身体、心理、発育に関し、時間的・空間的に全体像を把握できる。 子どもの疾病を生物学的、心理社会的背景を含めて診察できる。 EBMとNarrative-based Medicineを考慮した診療ができる。			
	成育医療 小児期だけにとどまらず、思春期・成人期も見据えた医療を実践できる。 次世代まで見据えた医療を実践できる。			
	小児救急医療 小児救急患者の重症度・緊急度を判断し、適切な対応ができる 小児救急の現場における保護者の不安に配慮ができる。			
	地域医療と社会資源の活用 地域の一次から二次までの小児医療を担う。 小児医療の法律・制度・社会資源に精通し、適切な地域医療を提供できる。 小児保健の地域計画に参加し、小児科に関わる専門職育成に関与できる。			
	患者・家族との信頼関係 多様な考えや背景を持つ小児患者と家族に対して信頼関係構築できる。 家族全体の心理社会的因子に配慮し、支援できる。			
育児・健康 支援者	プライマリ・ケアと育児支援 Common diseasesなど、日常よくある子どもの健康問題に対応できる。 家族の不安を把握し、適切な育児支援ができる。			
	健康支援と予防医療 乳幼児・学童・思春期を通して健康支援・予防医療を実践できる。			
子どもの代 弁者	アドボカシー（advocacy） 子どもに関する社会的な問題を認識できる。 子どもや家族の代弁者として問題解決にあたることができる。			
学識・研究 者	高次医療と病態研究 最新の医学情報を常に収集し、現状の医療を検証できる。 高次医療を経験し、病態・診断・治療法の研究に積極的に参画する。			
	国際的視野 国際的な視野を持って小児医療に関わることができる。 国際的な情報発信・国際貢献に積極的に関わる。			
医療のプロ フェッショ ナル	医の倫理 子どもを一つの人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。 患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。			
	省察と研鑽 他者からの評価を謙虚に受け止め、生涯自己省察と自己研鑽に努める。			
	教育への貢献 小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。 社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。			
	協働医療 小児医療にかかわる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。			
	医療安全 小児医療における安全管理・感染管理の適切なマネジメントができる。			
	医療経済 医療経済・保険制度・社会資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。			

- 2) 「経験すべき症候」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた経験すべき 33 症候のうち 8 割以上 (27 症候以上) を経験する必要があります (研修手帳に記録)

症候	1 年 目	2 年 目	終 了 時
体温の異常			
発熱、不明熱、低体温			
疼痛			
頭痛			
胸痛			
腹痛 (急性、反復性)			
背・腰痛、四肢痛、関節痛			
全身的症候			
泣き止まない、睡眠の異常			
発熱しやすい、かぜをひきやすい			
だるい、疲れやすい			
めまい、たちくらみ、顔色不良、気持ちが悪い			
ぐったりしている、脱水			
食欲がない、食が細い			
浮腫、黄疸			
成長の異常			
やせ、体重増加不良			
肥満、低身長、性成熟異常			
外表奇形・形態異常			
顔貌の異常、唇・口腔の発生異常、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、 股関節の異常			
皮膚、爪の異常			
発疹、湿疹、皮膚のびらん、尋麻疹、浮腫、母斑、膿瘍、皮下の腫瘍、乳腺の異常、爪の異常、発毛の異常、紫斑			
頭頸部の異常			
大頭、小頭、大泉門の異常			
頸部の腫脹、耳介周囲の腫脹、リンパ節腫大、耳痛、結膜充血			
消化器症状			
嘔吐 (吐血)、下痢、下血、血便、便秘、口内のただれ、裂肛			
腹部膨満、肝腫大、腹部腫瘍			
呼吸器症状			
咳、嘔声、喀痰、喘鳴、呼吸困難、陥没呼吸、呼吸不整、多呼吸			
鼻閉、鼻汁、咽頭痛、扁桃肥大、いびき			
循環器症状			
心雑音、脈拍の異常、チアノーゼ、血圧の異常			
血液の異常			
貧血、鼻出血、出血傾向、脾腫			
泌尿生殖器の異常			
排尿痛、頻尿、乏尿、失禁、多飲、多尿、血尿、陰嚢腫大、外性器の異常			
神経・筋症状			
けいれん、意識障害			
歩行異常、不随意運動、麻痺、筋力が弱い、体が柔らかい、floppy infant			
発達の問題			
発達の遅れ、落ち着きがない、言葉が遅い、構音障害 (吃音)、学習困難			
行動の問題			
夜尿、遺糞			
泣き入りひきつけ、夜泣き、夜驚、指しゃぶり、自慰、チック			
うつ、不登校、虐待、家庭の危機			
事故、傷害			
溺水、管腔異物、誤飲、誤嚥、熱傷、虫刺			
臨死、死			
臨死、死			

- 3) 「経験すべき疾患」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた経験すべき 109 疾患の 8 割以上（88 疾患以上）の経験が義務づけられます（研修手帳に記録）

新生児疾患、先天異常	感染症	循環器疾患	精神・行動・心身医学
低出生体重児	麻疹、風疹	先天性心疾患	心身症、心身医学的問題
新生児黄疸	単純ヘルペス感染症	川崎病の冠動脈障害	夜尿
呼吸窮迫症候群	水痘・帯状疱疹	房室ブロック	心因性頻尿
新生児仮死	伝染性単核球症	頻拍発作	発達遅滞、言語発達遅滞
新生児の感染症	突発性発疹	血液、腫瘍	自閉症スペクトラム
マス・スクリーニング	伝染性紅斑	鉄欠乏性貧血	AD/HD
先天異常、染色体異常症	手足口病、ヘルパンギーナ	血小板減少	救急
先天代謝、代謝性疾患	インフルエンザ	白血病、リンパ腫	けいれん発作
先天代謝異常症	アデノウイルス感染症	小児がん	喘息発作
代謝性疾患	溶連菌感染症	腎・泌尿器	ショック
内分泌	感染性胃腸炎	急性糸球体腎炎	急性心不全
低身長、成長障害	血便を呈する細菌性腸炎	ネフローゼ症候群	脱水症
単純性肥満、症候性肥満	尿路感染症	慢性腎炎	急性腹症
性早熟症、思春期早発症	皮膚感染症	尿管機能異常症	急性腎不全
糖尿病	マイコプラズマ感染症	尿路奇形	虐待、ネグレクト
生体防御、免疫	クラミジア感染症	生殖器	乳児突然死症候群
免疫不全症	百日咳	亀頭包皮炎	来院時心肺停止
免疫異常症	R Sウイルス感染症	外陰炎	溺水、外傷、熱傷
膠原病、リウマチ性疾患	肺炎	陰嚢水腫、精索水腫	異物誤飲・誤嚥、中毒
若年性特発性関節炎	急性中耳炎	停留精巣	思春期
SLE	髄膜炎（化膿性、無菌性）	包茎	過敏性腸症候群
川崎病	敗血症、菌血症	神経・筋疾患	起立性調節障害
血管性紫斑病	真菌感染症	熱性けいれん	性感染、性感染症
多型滲出性紅斑症候群	呼吸器	てんかん	月経の異常
アレルギー疾患	クループ症候群	顔面神経麻痺	関連領域
気管支喘息	細気管支炎	脳炎、脳症	虫垂炎
アレルギー性鼻炎・結膜炎	気道異物	脳性麻痺	鼠径ヘルニア
アトピー性皮膚炎	消化器	高次脳機能障害	肘内障
蕁麻疹、血管性浮腫	腸重積	筋ジストロフィー	先天性股関節脱臼
食物アレルギー	反復性腹痛		母斑、血管腫
アナフィラキシー	肝機能障害		扁桃、アデノイド肥大
			鼻出血

- 4) 「習得すべき診療技能と手技」に関する到達目標：日本小児科学会が定めた経験すべき 54 技能のうち、8 割以上（44 技能以上）の経験が義務づけられます（研修手帳に記録）。

身体計測		採尿	けいれん重積の処置と治療
皮脂厚測定		導尿	末梢血液検査
バイタルサイン		腰椎穿刺	尿一般検査、生化学検査、蓄尿
小奇形・形態異常の評価		骨髄穿刺	便一般検査
前弯試験		浣腸	髄液一般検査
透光試験（陰嚢、脳室）		高圧浣腸（腸重積整復術）	細菌培養検査、塗抹染色
眼底検査		エアゾール吸入	血液ガス分析
鼓膜検査		酸素吸入	血糖・ビリルビン簡易測定
鼻腔検査		臍肉芽の処置	心電図検査（手技）
注射法	静脈内注射	鼠径ヘルニアの還納	X線単純撮影
	筋肉内注射	小外科、膿瘍の外科処置	消化管造影
	皮下注射	肘内障の整復	静脈性尿路腎盂造影
	皮内注射	輸血	CT検査
採血法	毛細管採血	胃洗浄	腹部超音波検査
	静脈血採血	経管栄養法	排泄性膀胱尿道造影
	動脈血採血	簡易静脈圧測定	腹部超音波検査
静脈路確保	新生児	光線療法	
	乳児	心肺蘇生	
	幼児	消毒・滅菌法	

3-2. 学術活動への参加と支援 リサーチマインドの養成

当プログラムでは、3年間の研修を通じて科学的思考、生涯学習の姿勢、研究への関心などの学問的姿勢を学んでいきます。

- 1) 常に最新の医学情報を吸収し、診断・治療に反映できるように、小児科学会総会（毎年4月）、千葉地方会、小児科学会分科会（救急、循環器、神経、血液、新生児など）の参加、発表を積極的に支援します。
- 2) 高次医療を経験し、病態・診断・治療法の臨床研究に協力するために、大学病院、小児病院との連携を強化

学術論文：

小児科専門医受験資格として、査読制度のある学術誌に小児科に関連する筆頭論文1編を発表していることが求められます。論文執筆には1年以上の準備を要しますので、研修2年目のうちに指導医の助言を受けながら、論文テーマを決定し、投稿の準備を始めることが望まれます。

学術活動への参加と支援：

参加費、旅費の経済的支援を行います。また、各種講習会、セミナーの参加費を支援します。

日本小児科学会、日本小児神経学会、日本周産期・新生児学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会の研修認定施設として学術活動をおこなっています。その他、日本小児救急医学会、日本小児循環器学会、日本集中治療医学会において学術活動をおこなっています。奇数月の第3金曜日に千葉市小児科医会の先生方と公開カンファレンスを開催しています。この小児科カンファレンスは歴史があり、初回の1986年11月21日から2015年まで計166回開催しております。また年3回開催される日本小児科学会千葉地方会にも毎回演題を出し発表しています。

海浜病院医師による最近の論文（2014~15）

- ◇ 突然のチアノーゼ、呼吸障害で発症したductal shockの乳児例 要点をおさえる小児救急・プライマリケア 南江堂 2015
- ◇ 長期の下痢症状があり、頻脈発作で救急搬送された甲状腺クリーゼの学童 要点をおさえる小児救急・プライマリケア 南江堂 2015
- ◇ 腹痛持続するも診断まで時間を要した月経モリミナ 要点をおさえる小児救急・プライマリケア 南江堂 2015
- ◇ 失神 要点をおさえる小児救急・プライマリケア 南江堂 2015
- ◇ CPVTの1例 日本集中治療医学会雑誌 2015
- ◇ 感染性心内膜炎 小児救急治療ガイドライン 第3版 診断と治療社 2015
- ◇ ヒトメタニューモウイルス ドクターサロン 2015
- ◇ 今日の治療指針 2016 先天性心疾患の低酸素発作 医学書院 印刷中
- ◇ 今日の治療指針 2015 心疾患をもつ乳幼児の日常生活の管理と指導 医学書院 2015
- ◇ 今日の治療指針 2014 心疾患をもつ児童・生徒の学校管理下での取り扱い方 医学書院 2014
- ◇ Characteristic systemic cytokine responses in children with human bocavirus-positive lower respiratory tract infection. Microbiol Immunol. 2014
- ◇ Pneumothorax in patients with severe combined immunodeficiency. Pediatr Int 2014
- ◇ 川崎病 小児の治療指針 小児科診療2014増刊号 診断と治療社 2014
- ◇ 2014FIFAワールドカップ・サッカー談義 LISA 2014
- ◇ もしかしらファブリー病ではないですか 千葉市医師会だより2015 印刷中
- ◇ 早期乳児の上部尿路感染症に髄液細胞増多を認めた症例 小児科 2014
- ◇ 激しい疼痛に対し、acetaminophen、gabapentin、fentanyl持続静注の併用を行ったGuillain-Barre症候群の1例 脳と発達 2014
- ◇ 【小児の栄養】ピンポイント小児医療 栄養療法 食物アレルギーの食事指導 小児内科 2014
- ◇ 小児食物アレルギー診療UP DATE 治療法 薬物療法の選択 小児科 2014
- ◇ WU polyomavirus detected in respiratory tract specimens from young children in Japan. Pediatr Int 2013
- ◇ ITPKC and CASP3 polymorphisms and risks for IVIG unresponsiveness and coronary artery lesion formation in Kawasaki disease. Pharmacogenomics J 2013

学習環境も充実

- 1) 教育研修費の支給（テキストの購入費、学会年会費、学会参加費と旅費など）
- 2) 小児科関連雑誌の購読（和文：小児科、小児内科、小児科診療、小児科臨床、英文：The Journal of Pediatrics、Pediatric research、Pediatrics international、Clinics in perinatology、Archives of Disease in Childhood、The Journal of allergy and clinical Immunology、The Lancet）

- 3) 電子カルテには今日の臨床サポート®を導入し、オンライン検索サービスとして医学中央雑誌®とメディカルオンライン®とUpToDate®と契約し、最新のエビデンスが診療に取り入れられるよう環境整備を行っています。

研究マインド：研究マインドの醸成のために、大学などの研究機関での研修が可能なプログラムとしています。連携施設において研究指導を受けることができます。

自己学習の環境：自己学習が可能な環境を整備しています。無線LANを用いたインターネット環境を提供し、Up to dateなどの最新の知識が検索できる環境を整備しています。また、PALSトレーニング向けマネキン、SimJuniorを用いたシミュレーション教育が可能な学習環境を整備しています。

シミュレーション教育の例：

- ・ 院内トリアージ (JTAS)
- ・ 気道管理
- ・ 処置時の鎮静
- ・ 脱水乳児の初期対応と治療 骨髄路確保
- ・ 呼吸不全の初期対応と治療 マスク換気 気管挿管
- ・ 敗血症ショックの初期対応と治療
- ・ 危険な不整脈の診断、初期対応、除細動 などなど

3-3. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、医療安全

コアコンピテンシーとは医師としての中核的な能力あるいは姿勢のことで、4-1の「小児科専門医の役割」に関する到達目標が、これに該当します。特に「医療のプロフェッショナル」は小児科専門医としての倫理性や社会性に焦点を当てています。

- 1) 子どもを一個の人格として捉え、年齢・発達段階に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。
- 2) 患者のプライバシーに配慮し、小児科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。
- 3) 小児医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。
- 4) 社会に対して小児医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。
- 5) 小児医療に関わる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。
- 6) 小児医療の現場における安全管理・感染管理に対して適切なマネジメントができる。
- 7) 医療経済・社会保険制度・社会的資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。

* これらが達成できるように、専攻医は院内の医療倫理セミナー、医療安全委員会・セミナー、感染対策セミナーへの参加を義務づける。

4 地域医療の考え方

本プログラムでは、地域医療研修の充実を可能としたプログラムにしています。その大きな理由として、若い医師には多様な社会背景にある医療を経験することが必要だからです。

医療には多様な形態や考え方、住民から求められるものが異なることを知る事は、自身の視野を広げ、医療者としての成長につながると確信しております。多くの指導者に触れる事が出来ます。

具体的には、千葉市立海浜病院小児科を基幹施設とし市内のクリニック、さらには千葉県の東葛南部医療圏、市原医療圏、さらには、沖縄県、長野県、これら地域の特色ある小児医療を経験できるプログラムにしています。地域医療は小児科だけでは成り立たないことを連携先の地域で体験することも本プログラムの特徴です。

5 採用までのスケジュール

平成28年6月～8月：プログラム説明会（詳細の日程は後日公表）

平成28年9月：後期研修医（専攻医）募集締め切り

平成28年10月：選考試験

なお、応募を希望される医師の見学は随時受け付けております

♪ ♪ ♫ …

プログラム名： 千葉市立海浜病院 小児科専門研修プログラム

統括責任者： 金澤正樹

masaki-kanazawa@city.chiba.jp

応募先： 〒261-0012 千葉市美浜区磯辺3-31-1

千葉市立海浜病院 卒後研修センター 寺井 勝

masaru-terai@city.chiba.jp

電話 043-277-7711